



スバルを形づくるDNAと環境対応について

富士重工業株式会社
代表取締役社長

竹中 恭二

最初に富士重工業の「モノづくり」に受け継がれるフィロソフィーを紹介したいと思います。それは「最高の性能の追求」、「凝縮された無駄の無いパッケージ」、「あらゆる環境下での安全思想の徹底」の3点です。

ご存知の通り、富士重工業の前身は航空機メーカーであった中島飛行機です。この時代から脈々と受け継がれているDNAが前出の3点なのです。

私が富士重工業に入社間もない頃にはこの中島飛行機で実際に航空機の設計、開発に携わっていた人達がありました。これらの先輩達は戦中の戦闘機や偵察機の設計に際しても、星型18気筒「誉」エンジンに代表される「最高の性能の追求」や、艦載機であるがための全長制限をクリアする特殊な尾翼形状を持った「凝縮された無駄の無いパッケージ」を実現していました。そしてそれらと同時に戦時でありながら「あらゆる環境下での安全性」を常に念頭において航空機を開発していたのです。例えば乗員の安全を第一に考え、パイロットの背後に補助タンクを置く軍の指示を断固として受け入れず、代わって翼下の落下式補助タンクを実現させました。

これらのモノづくりの思想はスバル360、1000といった乗用車の開発にも遺憾なく発揮され、「性能」、「パッケージ」、「安全性」に優れた名車を世に送り出すことになりました。スバル360は小型車のスケールダウン版とし

ての軽自動車から脱却した素晴らしいパッケージを、当時としては目を眩る性能と安全性と共に実現しました。また、スバル1000は当時類を見ない水平対向エンジンとFF駆動方式の採用によって画期的な小型車として世界で評価されました。

また自動車以外でもこれらのDNAの結実として、戦後日本初のジェット機として、T-1練習機が富士重工業によって開発、生産されました。これは実はスバル360と同時期に開発された機体なのですが昨年ようやく最終機が退役するという寿命の長さを誇ります。同時に大変安全な航空機としても知られており連続無事故飛行の記録を保有していました。ここでもスバルのDNAが発揮され、例えば着陸時に万が一故障で車輪が出なくなっても、宙返りを行って3~4Gの力を掛け



T-1練習機

ば車輪が出てくるといった安全重視の設計となっていました。

このように中島飛行機時代から受け継がれるスバルのDNAは現在の商品にも活かされています。

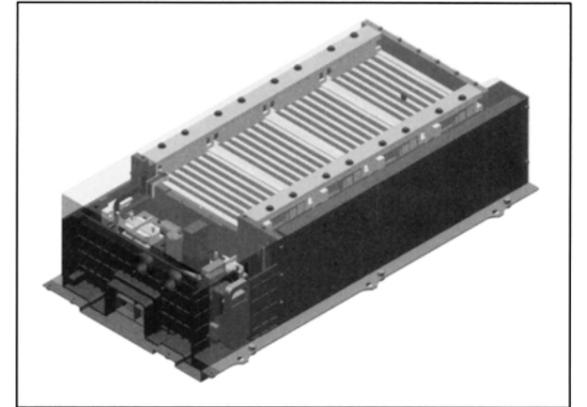
レガシイを始めとするスバルの主力車は水平対向エンジンとシメトリカルAWDがもたらす高い走行性能で広く知られるところですが、スバルのAWD技術は、四つの車輪の性能を極限まで突き詰める思想に基づくものです。同時に独自レイアウトを活かした車体パッケージにより余裕ある室内を実現しています。また同じくこのレイアウトを活かし、万一のクラッシュ時にエンジン、トランスミッションを床下へ落とし車室内に侵入させにくくするという工夫をこらしています。

これらの基本的な設計思想は他の全てのスバル車に共通しています。インプレッサではその「最高の性能の追求」の証としてWRCに挑戦し続け、現在日本車最多勝利の記録を更新中です。これはより高度な操縦安定性の獲得などにもつながり、「走り」を追求することでクルマの走りの愉しさに高度な「安全」と「環境」性能を備えること目指しています。

また既に米国市場に導入され今後グローバル展開するB9トライベッカもこれらの資質を当然受け継ぎ、中型SUVの走りの基準を一新しています。

これらスバル車の美点を将来に亘って継続、発展させていくには環境対応が基本になります。私達はこれに対しても「スバルらしさ」を追求し対応していきます。

将来の自動車のパワーユニットには電気が切っても切り離せない存在になり蓄電技術がその成否を握るこ



ラムリオンバッテリー透視図

とになります。このためスバルは大容量で高効率、しかも安価な蓄電媒体の開発に集中しています。2002年にNEC社と共同出資でNECラムリオンエナジー社を設立し、ここで今までにない性能のラムリオンバッテリーを開発中です。この電池はラミネートされたセルを積層することによって優れた車両搭載性を確保しながら寿命、急速充電性、パワー、コストといった車両動力源としてのバッテリー性能を飛躍的に向上させるものです。これによりスバルらしい走りのHEV、EVの開発に取り組んでいます。

さらに大容量リチウムイオンキャパシタを開発中であり、ピークパワー、瞬発力を確保した出力特性を実現するシステムを追求しています。

これらの成果は本年8月の「スバルモビリティ技術プレゼンテーション2005」にて発表させていただきました。

これからもスバルは先人の残したフィロソフィー、DNAを大事にスバルらしいクルマ造りをしていきます。今後のスバルにご期待ください。



スバル360



スバル1000